

JAMA NEWS

NO. 24

The Japanese Association of Management Accounting

日本管理会計学会 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1明治大学駿河台研究棟 620号室 FAX. 03(3296)2350

2005年度全国大会記

産能大学 長屋信義

日本管理会計学会（会長：田中雅康氏，諏訪東京理大学）2005年度全国大会は、玉川大学を会場として、2005年9月9日から11日までの日程で開催された（運営委員長：伊藤和憲氏）。

初日には学会賞審査委員会および理事会が行われた。

第2日目には自由論題報告、会員総会および統一論題報告が行われた。午前中の自由論題報告では、4会場で14件の報告がなされた。午後は会員総会の後、統一論題報告が浜田和樹氏（西南大学）を座長として、統一テーマ「戦略実行のマネジメント・システムにおける現状と課題」のもとに、伊藤克容氏（成蹊大学）、南雲岳彦氏（東京三菱銀行）、林昌芳氏（シャープシステムプロダクト）、伊藤嘉博氏（早稲田大学）の4名の報告が行われた。その後の懇親会は、多数の会員が出席して盛会となった。

最終日には院生セッション、テーマセッションおよび統一論題シンポジウムが行われた。午前は院生セッションとして2会場で6件の報告がなされ、同時に加登豊氏（神戸大学）により、「管理会計と日本的品質管理」のテーマでテーマセッションが行われた。午後の統一論題シンポジウムでは、座長および4名の報告者とフロアの間で活発な討論が行われた。

以下では、紙幅の関係上、統一論題報告と統一論題シンポジウムの要旨を示す。

1. 統一論題報告

(1) 伊藤克容氏の報告要旨

伊藤氏は、「戦略的管理会計論研究の動向：経営戦略論の多様化にともなう拡張と進化」というテーマで報告された。経営戦略との関係を重視した管理会計研究を戦略的管理会計研究として捉え、それがもたらした新しい知見を考察し、資本予算・予算管理システムといった管理会計ツールを検討し、BSCの経営戦略論によってデザインが異なる可能性を指摘するものであった。そのため、



まず、経営戦略論の多様化について、ポジショニング・アプローチ、資源アプローチ、学習アプローチおよびゲーム・アプローチを取り上げ、検討し、今後期待される拡張の方向性を説明した。さらに拡張の具体例として、ゲーム・アプローチと資本予算、学習アプローチとBeyond Budgetingモデル、BSCの構築に際してのインプリケーションが考察された。

(2) 南雲岳彦氏の報告要旨

南雲氏は、「戦略実行とエンタープライズ・リスク・マネジメントの統合アプローチを目指して—BSCとCOSO



ERMの融合の検討—」というテーマで報告された。BSCにはリスク・リターンのバランス概念が欠如しているのではない、経営管理・戦略管理の方法論、枠組み、ツールが乱立しており、それが問題を複雑化しているのではないかという問題意識のもと、BSCやCOSO ERMにおけるリスク管理の重要性を検討している。そのため、リスクの体系化を行い、リスク管理の重要性を考察した。そして、BSCにおいてリスク管理の位置付けの未発達を考察し、COSO ERMによる戦略とリスクの関係整理を経営目的、構成要素および組織展開の面から考察した。そして、BSCとCOSO ERMの融合的視座が主張された。

(3) 林昌芳氏の報告要旨

林氏は、「バランス・スコアカードの組織戦略目標を連鎖しながら個人の目標に落とし込み戦略実行を実現する」というテーマで報告された。シャープでのBSC導入の経験をもとに、その成果が報告された。シャープでのBSC導入の背景は、経済の不透明性、エレクトロニクス産業の構造不況およびシャープでの2003年問題の打開のため、事業構造、オペレーションおよび経営管理システムの変革をするためであった。BSCによって、バランスの取れた戦略立案、戦略の重点化・先鋭化、全社方針からの組織・個人の目標への連鎖の明確化および目標の数値化による実行管理と達成度に応じた業績評価といった効果をもたらそうとした。そのために努力がなされ、ITが利用された。このBSC導入によって、戦略的コミュニケーションの活性化、戦略の重点化・目標の指標化、顧客志向・戦略のバランスおよびミッションの再認識といった成果が得られた。また、いくつかの課題も認識されることとなった。

(4) 伊藤嘉博氏の報告要旨

伊藤氏は、「戦略マネジメント・システムとしてのBSCの現状と展望」というテーマで報告された。戦略マネジメント・システムとしてのBSCの手段的特徴を考察し、

それに内包される諸問題を解決するためにどのようなアプローチが有効であるかを考察するものである。まず、BSCの手段的特徴は、グローバル経営と社会・時代の要請に応えることおよび戦略の実行可能性を高めるための工夫であることと捉えている。そして、BSC実践上の諸問題を①戦略性に富み、かつ実効性のあるKSFが識別できない、②CSR関連の目標をBSC上にうまく組み入れられない、③ターゲットを定量的に設定できない、④イニシアティブと日常業務との関連性がはっきりしない、⑤KSFと利益計画・予算とをうまくリンクさせられないといったことを挙げている。そこで、CSRスコアカード、3次元戦略マップが考察され、達成すべき戦略目標とトレードオフ要因を混乱なく識別し、バランスをとるよう計画を立案することの重要性が主張され、支援ツールの工夫の必要性が説かれている。

2. 統一論題シンポジウム

統一論題シンポジウムでは、まず、各報告者から報告の要点について説明がなされた後、フロアから寄せられた質問に各報告者の回答し、質疑応答が行われた。内容については紙幅の都合上割愛せざるを得ないが、多数の質問が寄せられ、活発な議論が展開され、大会は大盛況のうちに終了した。



各種報告

早稲田大学 辻正雄

学会誌について

《管理会計学》

小倉昇(筑波大学)前編集委員長の下で編集された第13巻は、第1号・2号の合併号として2005年3月31日付けで発刊された。2005年4月1日より編集委員長に就任した原

田昇氏(東京理科大学)を中心に、新たに編集委員会が編成され、本年度は第14巻の第1号および第2号が予定通り刊行される見通しになっている。

《英文ジャーナル》

英文ジャーナルについては、定期刊行物として継続的に刊行することが困難であると判断され、毎年の刊行を目指しながら『管理会計学』のSupplementとして不定期に刊行することとなった。第1号は、既に数編の査読が完了しており、James Ohlson氏の“On Accounting Based Valuation Formula”を巻頭論文として、本年度中に刊行するべく準備が進められている。

フォーラムについて

《第1回フォーラム》

産能大学 長屋信義

2005年4月1日(金)に、2005年度第1回フォーラムが産能大学(実行委員長:田嶋敏男氏)にて開催された。増田譲二氏(日産自動車㈱)による「日産リバイバルプラン成功の秘訣と今後の展望」の特別公演が行われ、自由論題では、崎章浩氏(明治大学)の司会のもと、田坂公氏(専修大学)「ABCを活用した原価企画における課題と提案」と、長屋信義氏(産能大学)「海外進出企業の原価企画の状況」の報告が行われた。

《第2回フォーラム》

中部大学 竹森一正

日本管理会計学会2005年度第2回フォーラムは、2005年6月18日(土)、中部大学春日井キャンパスにおいて、次のように3部の構成により開催された(実行委員長:竹森一正)。

第1部先端企業実務の報告は、飯島康道氏(愛知学院大学教授)の司会により、柴田和範氏(公認会計士)から「パソコンによるビジネス・シミュレーションを用いた

管理会計教育」のテーマにより、同氏が開発し、教育研修に活用しているビジネス・シミュレーションがパソコン画面の投影を交えて報告された。

第Ⅱ部自由論題報告では、長岡正氏(朝日大学教授)の司会により、盧貞蘭氏(中央大学大学院生)「韓国と日本の合併の特徴の比較」と中島洋行氏(明治大学大学院生)「ライフサイクル・コストの適用可能業種に関する一考察—建設業に焦点を当てて—」の2つの報告が行われた。第Ⅲ部特別講演では、田中雅康会長の司会により、元ゼミ生の水谷彰利氏(アイシン精機)から「アイシン精機の原価管理」がパワーポイントの投影を交えて報告された。最先端をほこる企業の現場の迫力に会場は圧倒され、得るところ大の報告であった。

懇親会は、キャンパス内の別棟の会場で行われた。会長はじめ参加された先生方の御協力にお礼申し上げます。なお、フォーラムに先立って常務理事会が開催された。

リサーチセミナーについて

《第1回リサーチセミナー》

10月29日(土)に第1回リサーチセミナーが早稲田大学西早稲田キャンパス9号館において開催された。河路武志氏(成蹊大学)の報告「個人情報漏洩事件に対する株式市場の反応」および梅澤俊浩氏(北九州市立大学)の報告「創業社長が新規株式公開のアンダープライシングに及ぼす影響」が行われた。

《第2回リサーチセミナー》

2006年1月に第2回リサーチセミナーが大阪府立大学において開催される予定である。

《第3回リサーチセミナー》

2006年3月に第3回リサーチセミナーが青山学院大学において開催される予定である。

学会ホームページについて

広報委員会

日本管理会計学会は、公式ホームページ(<http://www.gakkainet.jp/jama/index.html>)を公開しています。しかし、ホームページがどのように更新され管理されているかわからないという声が寄せられます。

そこで、ホームページの運用に関する現況について簡単にお知らせいたします。

学会ホームページは中央経済社の全面的なご協力のもと、同社のサーバから公開されております。現時点では、

学会の事業運営担当者から広報担当者にコンテンツが届き、広報担当者を通じて中央経済社に更新を依頼し、実際の更新作業は同社のご担当者にお願するという流れになっています。このような段階を踏む必要があることから、更新にやや時間がかかり適時性を欠くといったケースもありますが、改善を図りたいと考えております。

ホームページの運用においては、コンテンツの更新だけではなく、運用管理をどうするかということが重要な課題です。現在、管理面の対応が遅れております。例えば、学会ホームページには会員個人のホームページをリ

ンクすることが可能ですが、どのような基準でリンクを認めればよいのか、あるいは電子会議室を有効に機能させるためのルールやモニタリング方法をどのように定めるのか、そうした運用管理に関する規定の整備が十分とはいえません。

今後は、更新手順の見直しや管理規定の整備などについて関係諸機関で検討を進め、会員の皆様にはホームページを有効に活用していただけるようにしたいと考えております。会員の皆様にはホームページに関するご意見をお寄せいただければ幸いです。

ご意見の投稿先：

中央大学 河合久 kawq@tamacc.chuo-u.ac.jp

学会賞決定！

学会賞審査委員会の審議の結果を受けて、2005年9月9日開催の常務理事会において、本年度の論文賞、奨励賞、文献賞が次の4氏に決まりました。2005年度会員総会の中で表彰式が行なわれ、田中雅康会長より賞状と金一封が贈呈されました。おめでとうございます。

《論文賞》

大鹿智基氏(早稲田大学)

「新規公開株式の株価と企業価値：IPOバブルと初値の妥当性」

『管理会計学』第13巻第1・2合併号、39-54ページ。

《奨励賞》

片岡洋人氏(大分大学)

「ABCの基礎的構造と意思決定」

『管理会計学』第12第2号、61-74ページ。

《文献賞》

澤邊紀生氏(京都大学)

『会計改革とリスク社会』岩波書店、2005年2月刊

高栢真一氏(久留米大学)

『アメリカ管理会計生成史：投資利益率に基づく経営管理の展開』創成社、2004年12月刊

2006年度全国大会開催校決定！

2006年度全国大会は、京都大学（大会準備委員長 上總康行氏）で開催されることが決定いたしました。なお、日程等の詳細は追ってお知らせいたします。

学会業務日誌

2005年4月1日(金)

▼常務理事会開催（産能大学代官山キャンパス）

◆ 常務理事の補充について、前回選挙の次点者、高齢

順の観点から水野一郎氏（関西大学）が常務理事に選任されました。また、次回以降の常務理事および理事選挙では、次点1名を発表することが承認され

ました。

- ◆ 2005年度日本管理会計学会運営方針案が承認されました。

研究活動の活性化について:

- 学会誌の定期刊行
- フォーラム, 企業研究会, 地区部会の活性化
- 実務家研究者との共同研究, 委託研究の推進
- 関連学会とのコラボレーションの推進
- リサーチセミナー, 準会員の研究体制の充実
- 国際交流の推進

組織について:

- 会長, 副会長および理事長からなる執行役員会の設置
- 学会本部事務局の事務量の軽減
- 理事長制, 役員の任期等についての見直し

広報・会員サービス:

- 学会ホームページの充実
- JAMA ニュースの定期刊行
- E-mail 利用による迅速な情報伝達
- 会員名簿の毎年発行

事業活動:

- 企業調査研究の推進と成果の刊行
- 学会誌の販売 (各大学の図書館など)
- 賛助会員・寄付等の増加

- ◆ 個人情報保護法の成立に伴い, 入会申込書及び会員名簿には「個人情報を学会運営の目的以外には利用しない」旨の文言を付加することが承認されました。
- ◆ 常務理事役割分担案が承認されました (詳細につきましては, 学会ホームページをご覧ください)。
- ◆ 田中雅康会長より参事5名が推薦され承認されました。
- ◆ 英文誌について, 定期刊行物ではなく『管理会計学』別冊 (不定期) として刊行することが承認されました。

2005年6月18日 (土)

▼常務理事会開催 (中部大学春日井キャンパス)

- ◆ 2004年度事業報告案, 収支決算案が承認されました。
- ◆ 2005年度事業計画案, 収支予算案が承認されました。
- ◆ 2005年度会員総会次第案が承認されました。
- ◆ 管理会計学会検定試験制度について, 検討委員会を設置することが承認されました。

- ◆ 上埜進組織改革検討委員長より, 学会員から学会組織に関する意見を電子メールで求める提案があり, 承認されました。
- ◆ 日本経済学会連合団体の評議員に, 石崎忠司副会長と辻正雄副会長が推薦され承認されました。

2005年9月9日 (金)

▼常務理事会開催 (玉川大学工学部)

- ◆ 学会賞受賞者が決定されました。
- ◆ 2005年9月9日現在, 正会員は711名, 準会員は93名, 賛助会員は7社, 合計会員数は811会員であることが報告されました。
- ◆ 2006年度全国大会が, 京都大学 (大会準備委員長上總康行氏) で開催されることが報告されました。
- ◆ 企業調査研究プロジェクトの進行状況について, 次のとおり報告されました。
 - 2005年3月に, 「グループ経営」専門委員会 (木村幾也委員長) の研究成果である『グループ企業の管理会計』が税務経理協会より刊行された。
 - 2005年3月に, 「予算管理・利益管理」専門委員会 (山田庫平委員長) の研究成果である『我が国企業の予算管理の実態』が産業経理協会より刊行された。
 - 2005年9月に, 「生産」専門委員会 (秋庭雅夫委員長) の研究成果である『TPマネジメントによる原価低減の実践記録』が税務経理協会より刊行予定である。
 - 「組織構造デザイン」専門委員会 (門田安弘委員長) と「企業間システム」専門委員会 (浜田和樹委員長) の研究成果は, 合冊にて近日刊行予定である。
 - 「戦略的プロセス管理」専門委員会 (李健泳委員長) の研究成果は, 2分冊にて近日刊行予定である。
 - 「国際管理会計」専門委員会 (宮本寛爾委員長) の研究成果は, 近日原稿完成予定である。
 - 「情報システム」専門委員会 (溝口周二委員長) の研究成果は, 近日原稿完成予定である。
 - 「原価計算」専門委員会 (昆誠一委員長) と「原価管理」専門委員会 (三代澤経人委員長) は合冊にて近日原稿完成予定である。

新入会員の紹介

- 正会員（敬称略）
22名入会
- 準会員（敬称略）
10名入会

※JAMA NEWS No.23以降, 9月9日現在

事務局からのお知らせ

- 個人情報保護法の全面施行に伴い、会員名簿の取り扱いについては十分ご注意ください。
- 会員名簿の訂正や、入会申込書の記載内容の変更等があった場合には、速やかに学会事務局までご連絡ください。なお、会員種類の変更には「会員種類変更申込書」の提出が必要です。捺印の上、学会事務局にご郵送ください。申込書は、学会公式ホームページで入手できます。
- フォーラムやリサーチセミナーの案内等、会員宛の連絡にe-mail を活用したいと考えています。e-mail address を未登録の方は、学会事務局までご連絡ください。また、すでに登録されている方で、案内等が届かない、あるいは、e-mail addressに変更があった場合には、速やかに学会事務局までご連絡ください。
- 学会のイベント情報等を学会公式ホームページに掲載しておりますので、時々閲覧してください。

[illegible]

発行機関：日本管理会計学会

《本部事務局》 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1明治大学駿河台研究棟 620号室
TEL. 03(3296)2062 FAX. 03(3296)2350
E-mail:jama@kisc.meiji.ac.jp

《学会公式ホームページ》

<http://www.gakkainet.jp/jama/index.html>